

ゆりいか通信

第16号

令和7年 8月



夏休みも中盤になると、家の
中のゆったりとした時間が
あたりまえになつてくるご家庭。
朝、目覚ましの音が鳴ら
ない日が続くことに、最初は
少しほととしていたのに、いつ
かそれが日常生活になつて
いる。子どもが学校に行つ
ていなくなると、特別な予定が
なくとも、親子でなんとなく
過ごしてしまって、そんなと
ころに、夏休みの魔法を感じ
ます。

けれど、8月のカレンダー
を見つめるたびに、学校が始
まる日が少し気になつてくる
時期もあります。「毎日が
夏休み」という言葉は夢のよ
うな生活を指すようですが、
学校に足が向かない子どもた
ちにとつては「毎日が夏休み
最終日」のように感じられる
そうです。もし、毎日が「夏
休みの終わりを意識する日」
だつたら、それはきっと、落
ち着かない時間が続くことか
もしれません。

保護者にとっても夏休みの
終わりが近づいてくると、落
ち着かない時間が続くことか
もしれません。

「今度は行けるのだろうか」と、
「学校行事には参加できるだ
ろうか」と、さまざま思い

次の一步を探す、夏の午後

Our Activities

都（略称・高校コンソ）さんによる「高校コンソーム京都市立高等学校と産業界および大学との連携を推進し、「広い世界に羽ばたかせる力を発揮できる機会と場所を提供」しておられます。（[ヨリイカ](#)サイトより引用）詳しくはwebサイトやインスタ、フェイスブックで検索してご覧ください。

ゆりいか研究会では、学生とそのご家族を対象とした広報誌『Career』に、ゆりいか研究会の活動を紹介しました。高校コンソームさんは京都市立高等学校と産業界および大学との連携を推進し、「広い世界に羽ばたかせる力を発揮できる機会と場所を提供」しておられます。（[ヨリイカ](#)サイトより引用）詳しくはwebサイトやインスタ、フェイスブックで検索してご覧ください。

7月のフラッペでは、「メンタルヘルス・ファーストエイド（MFA）」をテーマにとりあげました。講師には、京都府精神保健福祉総合センター相談指導教員および支援者向けのカリンバ体験会、また教員とそのご家族を対象としたカリンバ体験会、また教員および支援者向けのカリンバ体験会を行っています。詳細については市立図書館や京都市適応指導教員おとす案内チラシ、西陣織会館「ふれあいの杜」に置かれています。詳しくはゆりいか研究会のサイトをご覧ください。

ゆりいか研究会では、学生とそのご家族を対象とした広報誌『Career』に、ゆりいか研究会の活動を紹介しました。高校コンソームさんは京都市立高等学校と産業界および大学との連携を推進し、「広い世界に羽ばたかせる力を発揮できる機会と場所を提供」しておられます。（[ヨリイカ](#)サイトより引用）詳しくはwebサイトやインスタ、フェイスブックで検索してご覧ください。

広報誌 「Career」に紹介掲載



カリンバ体験 【保護者・支援者・若者向け】

フラッペ

ゆりいか研究会では、学生とそのご家族を対象とした広報誌『Career』に、ゆりいか研究会の活動を紹介しました。高校コンソームさんは京都市立高等学校と産業界および大学との連携を推進し、「広い世界に羽ばたかせる力を発揮できる機会と場所を提供」しておられます。（[ヨリイカ](#)サイトより引用）詳しくはwebサイトをご覧ください。

7月のフラッペでは、「メンタルヘルス・ファーストエイド（MFA）」をテーマにとりあげました。講師には、京都府精神保健福祉総合センター相談指導教員および支援者向けのカリンバ体験会、また教員とそのご家族を対象としたカリンバ体験会、また教員および支援者向けのカリンバ体験会を行っています。詳細については市立図書館や京都市適応指導教員おとす案内チラシ、西陣織会館「ふれあいの杜」に置かれています。詳しくはゆりいか研究会のサイトをご覧ください。



8月のフラッペでは、「メンタルヘルス・ファーストエイド（MFA）」をテーマにとりあげました。講師には、京都府精神保健福祉総合センター相談指導教員および支援者向けのカリンバ体験会、また教員とそのご家族を対象としたカリンバ体験会、また教員および支援者向けのカリンバ体験会を行っています。詳しくはwebサイトやインスタ、フェイスブックで検索してご覧ください。



Upcoming Events

★ ゆりいか勉強会

8/23

今回は中島陽大先生をお迎えして、学びを深めます。テーマは「睡眠」です。

◆ フラッペ勉強会・交流会

8/24

～ 中止 ～

❤ わいわいギャザリング

9/13

カリンバをさわってみたり、ボードゲームをしたりして過ごしましょう。

◆ フラッペ勉強会・交流会

9/21

「不登校の子どもの将来設計」というテーマで、お話をしたいと思います。



ゆりいか研究会

- ★ 教職員・若者支援者対象
- ◆ 保護者・若者支援者対象
- ❤ 高校生年代の若者対象

いずれも詳細はゆりいか研究会ウェブサイトをご覧ください。

今月のコラム

先月に引き続き、宮美遊さんの園芸コラムです。

オクラが教えてくれたこと

去年のゴールデンウィーク、園芸店でオクラの苗を買った。黒いポットには三本植えられていた。家に戻ると早速プランターに二〇センチ間隔で一本ずつ植えた。インターネットで調べてみるとオクラの根は纖細なのでばらさずに三本をまとめてそつと鉢に植えると良いというこどだつた。慌ててプランターの苗を一箇所にまとめて風で折れないように支柱を立てた。風通しが良く、日当たりの良い場所に置いたのですくすく育った。オクラの成長は驚くほど早い。茎と葉っぱのでている茎の間に出てくる新芽を手でとる。これはミニトマトでも経験済みだ。この脇芽掻きは私の園芸心をくすぐる大切な作業だ。数日すると月見草の様な鮮やかな黄色の蕾が顔を出す。その蕾が翌日には朝顔の花の大きさになる。その花は一晩でオクラになるととても可愛い。五・六センチに成つたら食べ頃だ。一日放つて

おくと十センチになり、硬くて食べられない。毎日二・三本取るので収穫しては、うどんの茹で汁にくぐらせた。丼であらかじめ練つておいた納豆に黒酢味のもずくを入れ、少し冷ましたうどんを混ぜる。熱々のうどんだと納豆菌が死滅して効果が薄れるからだ。気分を変えたいときは、白菜キムチを上に乗せると色鮮やかで食が進む。発酵食品の健康料理だ。

オクラ栽培は虫もつかず手入れも楽だ、そう思い今年は四月中頃苗を買って植えてみた。ところがである。気温が低い為に全く背丈が伸びない。去年は水やりのたびに背が伸び、葉が広がる様子が楽しみで仕方なかつたのに今年は、鉢の前でため息をつく毎日。もう枯れてしまふのかと心配になつた。調べてみると、植える時期は五月に入つてからと分かった。又去年と

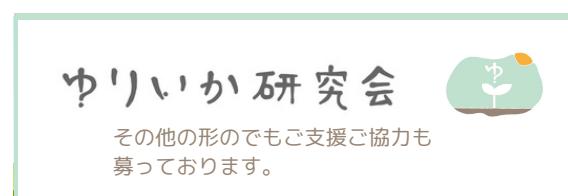
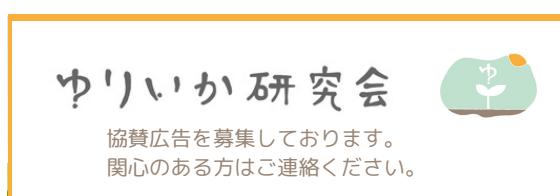
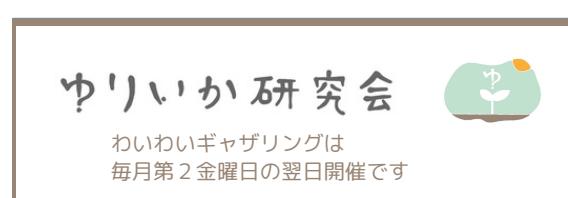
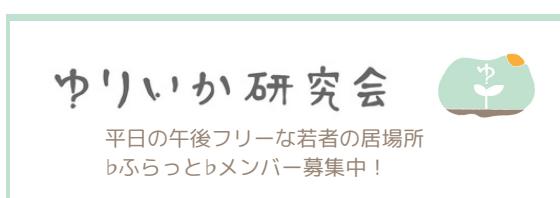
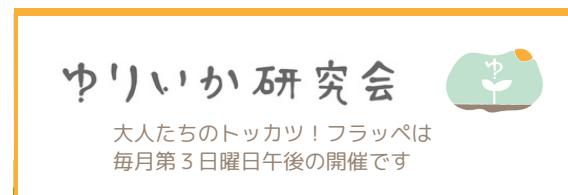
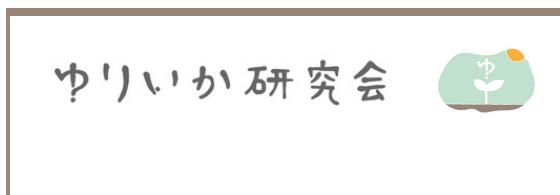
同じ土だと連作障害を起こすと書いてある。慌ててプランターから深底の鉢に植え替えた。オクラは真っ直ぐ下に根を生やすと書いてあるので深底の鉢にしたのだ。七月に入つてやつと黄色の蕾を付けて元気良くなってきた。だがまだまだ安心出来ない。七月九日やつと今年初めての一本目を収穫した。大きさは五・六センチで食べ頃には丁度いい。去年は簡単にスクスク育ち、オクラも五・六十個取れたのに今年は背丈も短くオクラは一・二個なのが不思議だ。園芸は本当に奥が深く、難しいものだとつくづく実感した。

植物は時期と温度が重要である。植物によつて手入れが異なる。幾つになつても勉強だ。失敗も含めて、植物と過ごす時間は宝物だと思う。来年はまた、あの黄色い花が風に揺れる景色をたくさん見たい。

Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（3月中旬～下旬、順不同）



多喜誠子さま、杉本さま、宮坂修平さま、T.OGAWAさま他1名

クラウドファンディングおよびその他の形で協賛・寄付をしていただいたみなさまに心より感謝申し上げます。campfire community におきまして引き続きクラウドファンディングを受け付けております。また協賛広告や直接の寄付も受け付けております。関心をお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひお声がけください。



《連續小說》



金鷄鳥

宮美遊

明治から大正に変わった夏、六
才の信男は兄の辰郎によく川へ誘
われた。信男がバケツを持つて、
辰郎がドジヨウすくい用のザルを
持つのが常だった。ドジヨウやハ
ヨ（ハヤ）などの子魚取り、ミヅ
貝やシジミ取りをするのだ。田ん
ぼの横を流れる用水路には、田シ
ジミが沢山（たくさん）いる。用
水路や溝の堰（せき）を、そばに
ある板で塞ぐ。石垣を飛び降りて
中に入り二人で水をバケツで搔き
出す。すると石垣のすきまから水
を求めて鰻や鮎やズガニが出てき
た。二人は大喜びでそれを捕まえ
てバケツに次々ほうり込んだ。
また二人でタツボ（タニシ）
を取りに行くこともありには、家の
周りには、沼田もたくさんあつた。
田植えもたくさんあつた。



この小説は、明治・大正・昭和と激動の時代を乗り切った実在の人物をモデルとした小説です。先行き不透明な現代を生きるヒントが得られるような気がします。ぜひこれからも楽しんでご一読ください

えの後に成長した稻の足元にはタツボがいる。タツボを拾い、目籠（めかご）に山盛り入れて帰つた。田の水口には3センチ位の鮒子（ふなこ）がウジヤウジヤいたので、それもよく捕つて帰つた。ある日も信男と辰郎二人は重いバケツを持ちながら、二コ二コと家に向かつて歩いていた。「にいちゃん、イッパイされたなあー」
「お母（かあ）が喜ぶに」「お母の作るのは、うまいであー

插絵：GPT-5

繪：落葉画廊

★ フラッペ中止のお知らせ
8月のフラッペはスタッフ
の都合により中止いたします。
ご予定くださっていいた皆さま
には申し訳ありませんが、ま
たの機会にご参加いただけれ
ば幸いです。

この夏、照りつけの日差しとともに、生活スタイルの変化に合わせて家中を思い切って模様替えしています。長年「もつたいない」としまい込んでいた物が山ほどあり、これを機に断捨離を：と思うものの、やはり捨てるには勇気がいります。そこで、中古品をやり取りできるサービスを使い、必要としてくださる方にお譲りすることになりました。真夏の青空の下、荷物を受け取つた方が笑顔でお礼を言つてくださると、「こんなご縁もあるのだな」と心が温かくなります。そのおかげで、片付けの手も自然と軽くなつてきました。（恩庄か）

おしゃらせ

編集後記

★令和7年7月号までのゆり
いか通信をウェブサイトに掲
載しました。